



四万十町
町内「ぶら〜り」散策

上 じょう

宮 ぐう



明 治時代までは北ノ川（北野川・喜多川）六ヶ村の一つであった上宮は、四万十川を挟んで、北の川地区の対岸に沿って長く伸びる集落である。上組・中組・下組にわかれ、下組の先はもう打井川である。

江戸期、北ノ川六ヶ村では北ノ川に庄屋が置かれ、その他の村には庄屋配下の名本を配置していたのだが、ここ上宮には独立した庄屋が置かれていたようである。理由はわからない。庄屋宅は、現在の氷室天神社の下にあつたと記録されている。

その氷室天神社は地区の産土神である。神社は昭和23年に現在の場所に移されたのであるが、それまでは、庄屋宅に隣接していた。現在の「上宮のメインストリート」のすぐ下である。道路の上からさらに登ったところに移されたのは「大水が来た場合、水没の可能性がある」という心配からではないかと考えられている。昭和23年であれば、明治23年の大水害を経験した村人たちもまだ健在だった時代である。おそらくであるが、近隣地区の神社が本殿ごと流されてしまった被害報告などを記憶していたに違いない。

ところで、庄屋宅があつたとされる場所のすぐ近くの畑から縄文土器のかげらが多数見つかった。打井川地区に向かって四万十川が大きく曲がっていく場所であるため、太古の昔から、水の便が良いだけでなく、土地も肥沃だったのかもしれない。

上宮には昭和32年に完成した沈下橋がある。上宮の子どもたちはこの橋を渡って北ノ川小・中学校に通っている。



鳥居横の小さな茶室は、以前は鳥居の向こう側にあった。鳥居の上に氷室天神社がある。

るが、橋がかかる前は、渡し船を使っていたのだそう。上（かみ）・中（なか）・下（しも）にそれぞれ一箇所ずつ、渡しがあつたらしい。対岸を走るバスを利用する人もこの渡しを使った。

また、打井川までを貫く上宮地区のメインストリートは、昭和40年頃までは「全線開通」していなかった。車が通れる幅の道路は、上（かみ）から下つてきて、氷室天神社の辺りまで。そこからはリヤカーがやっと通れるくらいの道しかなかったそうである。昭和38年に結婚したという、ある住民のお話によると「嫁入り道具を積んだ農協のトラックが、お宮の下まで来て、そこからはリヤカーに積み替えてうちまで運んだ」という。その道を地元住民たちが広げていったのである。当時の大正町が導入した「失対事業」として行われたもので、賃金は1日あたり200円にも満たなかったというが、生活道の整備のため、多くの住民が参加した。むろん重機など無い時代である。作業は全て手作業であった。今、春になるとこの道を桜マラソンのランナーたちが気持ちよく走る。当時の住民の労働のおかげである。

町のうごき

(3月31日)	人口	前月比		出生	死亡	転入	転出	
男	7,767	－45	男	6	16	38	73	
女	8,528	－53	女	5	22	39	75	
計	16,295	－98	計	11	38	77	148	
世帯数	8,290	－34						(3月中の届出)
窪川地域	11,572人	大正地域	2,247人	十和地域	2,476人			

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	3月15日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	0.445
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	2.426
化学的酸素要求量	≤ 10.0	0.25

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信

2021.5月号
Vol.182（毎月10日発行）

●発行／四万十町企画課 ●印刷／窪川印刷

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

☎(0880) 22-3124

FAX(0880) 22-3123

UD FONT
by MORISAWA

本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。